

## 徳島城(渭山城, 渭津城) (国史跡, 国名勝, 百名城) (徳島市徳島町)

徳島城（とくしまじょう）は、徳島県徳島市徳島町にあった城。国の史跡、名勝（表御殿庭園）。

徳島城は JR 徳島駅の北側にあり、徳島市の中心部に位置する。

吉野川河口付近の中洲に位置する標高 61 メートルの城山に築かれた山城と城山の周囲の平城からなる、連郭式の平山城である。

この地は鎌倉時代より伊予国地頭の河野氏が支配していた。室町時代の 1385 年（至徳 2 年）に細川頼之が四国地方にあった南朝方の勢力を討ち、現在の城地の城山に小城を築いた。頼之は助任川の風光を中国の渭水に例え、この地を渭津、山を渭山と名付けたとされ、または富田庄（のちの徳島）の地頭として来任した河野通純が 1272 年（文永 9 年）に築いたともされる。渭山の名についても、西から見た姿がイノシシに似るため猪山と呼んだという説もある。

『城跡記』は徳島城築城について「渭山寺島両城を合して一城となす」と記す。寺島城は平地にあった城で、文献は寺島の西端（現 郷土文化会館付近）とするが、発掘調査ではのちの花畑（現 市立体育館付近）の可能性が示唆される。

戦国時代になると、阿波の地は群雄が割拠し、しばしば城主が入れ替わった。1582 年（天正 10 年）には土佐国の長宗我部元親が侵攻し阿波が平定された。

1585 年（天正 13 年）、豊臣秀吉の四国征伐に勲功のあった蜂須賀家政（蜂須賀正勝の子）が阿波 1 国 18 万 6000 石を賜った。入封当初は徳島市西部にあった一宮城に入城したが、入封早々に現在の地に大規模な平山城を築造し、翌年完成した。以後、江戸時代を通して徳島藩蜂須賀氏 25 万石の居城となり、明治維新を迎える。

天守

創建当時の天守は元和年間（1615 年-1624 年）に取り壊されたといわれており、まもなく、城山の中腹にある東二の丸に天守代用の御三階櫓が構えられた。

東二の丸天守は、天守破却後に天守の代用として建てられた、当時は御三階櫓と呼ばれていたものである。なぜ、二の丸に建てられたのかは定かではなく、景観バランスを整えるためであるとか城の防備上の都合によるものなどが考えられている。1873 年（明治 6 年）の廃城令の発布により撤去された。

3 重 3 階建てで、櫓台はなく初重平面形は正方形である。下から 7 間四方・5 間四方 3 間四方といった具合の層塔型の特徴である一定の遞減率があるが、外観は望楼型といういわゆる復古型などと呼ばれるものである。外観意匠は、全面下見板張で破風は 3 重目の入母屋破風のほかに 1 重目の向唐破風と大入母屋破風が付けられていた。

Wikipedia による



# 徳島城地図

